

第80回 多言語化現象研究会

「中国雲南省麗江の国際化と多言語化が トンパ文字に及ぼした多面的影響に関する考察」

高 茜^{カオ チェン}(国立民族学博物館外来研究員・雲南芸術学院教授)

【キーワード:麗江、震災支援、国際化、文字形象、言語変容】

中国ナシ族のトンパ教で用いられたトンパ象形文字は第二次大戦後、宗教政策によって社会生活から姿を消したが、改革・開放以降、とりわけ1990年代後半の観光に伴って現地麗江に再び姿を現した。2005年の第24回研究会では、2003年までの麗江でのトンパ文字の変容について紹介したが、今回はその続編として、以下について考察する。

まず、麗江が海外に知られたきっかけ、および国際化の過程について振り返る。今回は特に、麗江大地震における日本のメディア報道、震災後の国際社会からの支援、及びトンパ文化に関心を持った人々の麗江への訪問について取り上げたい。次に、国際観光名所になった麗江の街角に現れた、トンパ文字をはじめとする視覚的多言語景観について概観する。さらに、国際化によって促進された言語に関する動きとして、多言語学習、民族言語と関連する教育、アート活動にも言及したい。最後に、それらの現象の特質について考察したい。

「猪飼野セツパラム文庫の取り組み

—多民族共生社会の実現に向けて—

藤井幸之助(NPO 法人猪飼野セツパラム文庫代表理事・同志社大学嘱託講師)

【キーワード:猪飼野、在日朝鮮人、移民史、当事者性、多民族共生社会、拠点づくり】

日本に暮らす朝鮮人・マイノリティに焦点を当てたコリアン・マイノリティ研究会の活動の根拠地として、2010年に大阪市東淀川区に「陰陽連絡線セツパラム文庫」を開設。2015年には天王寺区に移転し、「猪飼野セツパラム文庫」に改称。これまでに、コリマイ研(215回)と「映像で見る朝鮮/韓国/在日」上映会(68回)を毎月開催してきた。また、国内外から移民史を研究・教育する人々を迎え、在日朝鮮人関連を中心とした図書館業務・レファレンスをおこなってきた。

昨年秋には特定非営利活動法人化し、増え続ける図書資料で手狭になってきた現在、生野区への移転にむけて活動している。民族・国籍・人種を超えて当事者性をもって、多民族共生社会の実現に向けた拠点づくりをおこなっていく。

日時:2022年9月25日(日)14:00~17:00

Zoom

申込み:前日までに以下にアクセスし、事前登録をお願いします。登録後、ミーティング参加に関する情報の確認メールが届きます。<https://zoom.us/meeting/register/tJItcuugrT4vE9Q9StGo4K8kT80bVuf65K3S>
登録者には当日参加用リンク(本人のみ有効)が送付されます。これで事前登録が完了します。資料は当日配布します。

参加無料(どなたでもご参加いただけます)

主催:多言語化現象研究会 <http://www.tagengoka.sakura.ne.jp>

●多言語化現象研究会事務局: webmaster@tagengoka.sakura.ne.jp